



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

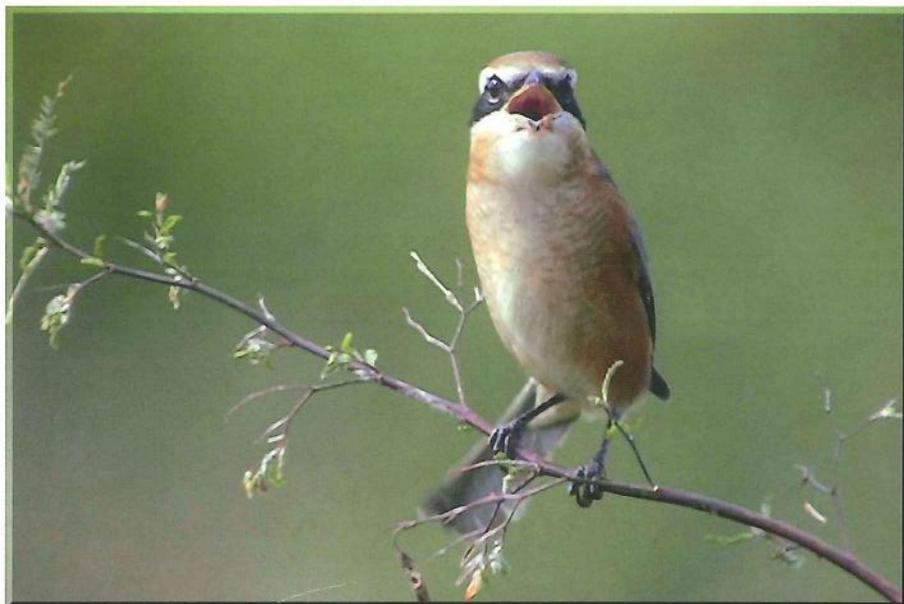
# しらこぼと

## 2012.10

No.342

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



# 小笠原諸島に鳥を訪ねて

内田克二(さいたま市)

世界自然遺産への指定とオガサワラヒメミズナギドリの発見に刺激され、話題の小笠原諸島に行ってきました。

## ■ 2012年7月9日

東京から南へ 1000 kmの父島へは「おがさわら丸」で25時間半の船旅です。朝10時に竹芝桟橋を出航し、途中八丈島を過ぎたあたりから鳥種は変わり、セグロミズナギドリやアナドリが増えてきました。オガサワラヒメミズナギドリも出るのですが、飛んでいるのを目で見て確認するのは困難であり、写真での同定が必要と思われました。

## ■ 7月10日

朝は4時過ぎからデッキに出て鳥見を始めましたが、すでにシロハラミズナギドリが多数飛んでいました。7時半過ぎには、マッコウクジラが2頭、巨体を海上に現し、ブリーチ(ジャンプ)を見せてくれました。この頃からカツオドリが増え、船と並行して飛び、時折トビウオを追いかけてダイビングする様子を見せてくれるようになりました。



11時半に父島二見港に到着すると、港の前の公園ではイオウジマメジロとハシナガウグイスが鳴き、イソヒヨドリは人を恐れずに芝の上を歩き回っています。上空ではオガサワラノスリがゆっくりと旋回しており、ついに父島にきたぞ!! という気持ちになりました。

午後から自衛隊基地に入れてもらい散策すると、林の中では問題になっているグリーンアノールがすぐに見つかり、タコノキの根元にはオオヤドカリが動き回っていました。ア

カガシラカラスバトがいるとの情報もあったのですが、今回は見られませんでした。夕方7時に再び乗船し、硫黄島3島クルーズに向かいました。

## ■ 7月11日

硫黄島に近づく



朝6時に南硫黄島海域に到着するとデッキの周りにはアカアシカツオドリが数羽飛んでいました。アナドリ、クロウミツバメ、オガサワラミズナギドリも数多く見られ、更に南硫黄島に近づくとアカオネッタイチョウが船を横切って飛んでいきました。

島の岸壁には、20羽以上のアカオネッタイチョウがひらひらと優雅に舞っており、中腹にはアカアシカツオドリのコロニーが見えました。船の先方では、7羽のシロアジサシが飛んでいました。9時近くに硫黄島に近づくとクロアジサシが増えてきました。

島を一周した後、菊の花を海に投げ入れてドラの音に合わせて1分間の黙とうをしていると急に暗雲が広がり10分ほどの大粒の雨となりました。

次に、北硫黄島に向かいましたが、シロハラミズナギドリ、オナガミズナギドリ、アナドリの群れに幾度となく出会い、カツオドリも船と並行して飛んでくれました。12時過ぎに北硫黄島に近づき島を2周しましたが、ここでも島の岸壁をアカオネッタイチョウが20羽以上ひらひらと飛んでいました。その中に、

シラオネツタイチョウも数羽混じっていました。この島でもアカアシカツオドリが集団営巣しているのが観察できました。

硫黄島3島めぐりを十分楽しんだ後、再度父島に向かいました。途中、北硫黄島と母島の間では、意外なほど鳥の姿は少なく、母島と父島の間ではシロハラミズナギドリ、セグロミズナギドリ、アナドリの姿が増えてきました。やはり、島が近いと海鳥も増える感じがしました。夕方、7時に父島に到着しそのまま船中泊となりました。

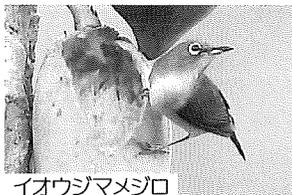
#### ■ 7月12日

朝4時に下船して二見港周辺を歩き回りました。すでに、イオウジマメジロの声がうるさい程であり、ハシナガウグイスの囀りも聞こえてきました。イソヒヨドリは、人を気にすることもなく道端を歩き回っていました。

7時半には「ははじま丸」に乗船して母島に向かいました。約50km 2時間10分の船旅ですが、途中クロアジサシや水浴中のカツオドリ、トビウオを追いかけるアナドリ、水面すれすれに飛ぶシロハラミズナギドリやオナガミズナギドリを見ている間に、母島に到着しました。

港では、カツオドリが普通に目の前を飛んでいました。宿に荷物を置いて、すぐに島内探鳥に出かけましたが、観察ポイントは、パパイヤの実の熟した木を見つけることが第1歩です。すぐに宿の近くで探すことができ、すでにイオウジマメジロの親が雛にパパイヤの実を与えているところでした。雛は全身を震わせて餌をねだっていました。

パパイヤの実は大きいのでオガサワラヒヨドリが横穴をあけて初食いをし、続いてメグ



イオウジマメジロ

ロが果実を食べて穴を奥深くし、やっとメジロの番となります。ヒヨドリが戻ってくるとメグロもメジロも近くの枝に避難して順番を待っていました。地上に落ちた実をオガサワラカワラヒワの親子が食べていました。今が小鳥たちの巣立ちのピークかもしれません。

全ての時間がゆっくり回っている感じがしました。

夕方アオウミガメを見に海岸に行きました。途中色鮮やかなトウネンが1羽、夢中で採餌していました。カメの産卵は、毎夜行われているようで、人工孵化場の砂浜は卵の標識でいっぱいでした。飼育されているアオウミガメは澄み切った海中をゆったりと泳ぎまわり、時折頭を持ち上げて「ブファー」と息を吸い込む音の大きさにびっくりしました。

沖港では、ちょうど漁を終えた船が戻ってくる時間で小さな子どもを抱えた奥さんの待つ港へ男1人が乗り込んだハエナワ船が入ってくるのは男のロマンを感じる一時でした。40~100 kgのメカジキが、次々と重さを量られ、氷づめにされていく光景に少々興奮気味となりました。値は脂の乗り具合で決まるそうです。

#### ■ 7月13日

早朝よりメグロ探鳥へ出かけ、昨日見つけたポイントに行ってみました。パパイヤの実にメグ



メグロ

ロ、メジロが集まって食事中でしたが、ヒヨドリの姿はありませんでした。近くでハシナガウグイスが鳴いており、遠方の鉄柱の上にはオガサワラノスリが止まっていました。

島での鳥見にも十分満足し、10時半に母島を離れました。イルカの群れがジャンプをしながら「ははじま丸」に併走して見送ってくれました。まさに、南国ならではの光景でした。

再度、父島に寄港してオガサワラメジロ、ハシナガウグイス、イソヒヨドリをゆっくりと観察して14時に父島を出航しました。

出航に際してのセレモニー、自衛官の引き継ぎ式、島太鼓の演奏、そして湾外まで伴走してくれた10隻以上の地元レジャーボートの若者たち。最後に一斉に海に飛び込んで手を振ってくれた光景を含めた沢山の思い出を胸に父島を後にしました。

(写真：p 2の2枚=筆者、p 3の2枚=海老原美夫)

## ツミの観察報告

田中幸男(蓮田市)

今夏、自宅近くでツミの繁殖から子育て、そして雛の成長までを2ヵ月以上にわたり観察できるという機会を得ました。観察では刺激しないよう極力身を隠し、営巣木の観察では土地所有者の立ち入り許可を得て、特に巣の下ではウロウロすることをせず、短時間の観察としました。その記録は、ノート30ページ以上となりました。その記録から今回の報告をまとめてみました。

### ●観察記録からの主な様子

6/02 つがいでの飛来を初めて確認。すぐに交尾行動。この日以降も何度か交尾行動を目にする。交尾時、♂は♀の身体にツメが刺さらないようにしていた(写真)。5月末頃から時折タカのような声が聞こえると家内が気づいていた。



- 6/05 巣から尾羽が出ていて、初めての在巣を確認。
- 6/08 この日以降、♂♀ともシダレザクラの葉のついた小枝を折り、何度も運ぶ様子を観察。葉は産座にしているものと思わる。
- 6/10 シダレザクラで♂が♀に求愛給餌。この日以降、鳴き交わしながら飛来し、付近で採餌したり、羽繕いをしたりすることが多くなった。
- 6/16 ♀の抱卵斑を確認(この頃抱卵がはじまった模様)。
- 6/20 台風が去った後も在巣確認。ホッとする。
- 7/04 つがいでの巣立ち直後のシジュウカラを襲うも失敗。狩りの様子はこの日以外確認できず。

- 7/10 巣の縁に♀が座っているのを初めて確認。これまで在巣は巣からはみ出ている尾羽での確認だったので、この頃が最初の孵化と考えた。
- 7/13 巣で♀の給餌行動を確認。雛は見えなかった。
- 7/19 幼鳥2羽を確認。その後7/24にもう1羽、7/26にもう1羽を確認し、計4羽の孵化を確認した。
- 7/22 この日を最後に♂親の確認できず。♀親はこの頃より終日テレビアンテナにとまり、獲物を探している様子だった。
- 7/29 幼鳥1羽が初めて巣を離れた(巣立った)。その後7/30に1羽、7/31に1羽、8/01に1羽が巣を離れ、計4羽の巣立ちを確認した。
- 8/03 以降、幼鳥が木々の間を飛ぶようになり、その成長の速さに驚く。
- 8/09 顔に幼さは残るが、雛から幼鳥への換羽が全て終わったようだ。
- 8/10 以降、幼鳥のアブラゼミ狩りと採餌の様子を観察。
- 8/15 この日を最後に♀親の確認ができず。
- 8/18 幼鳥が1羽となる。この日を最後にツミの観察を終了とする。

### ●観察していて興味深かったこと 親鳥について

- ・♂♀2羽で行動することが多い。
- ・同じ場所への飛来回数が多く、行動範囲はあまり広くないよう。
- ・♂♀とも飛来時はよく鳴く。♂親はクエクエクエとどちらかというところな感じで鳴いた後にキ・キ・キと激しく鳴くが、♀親は常に最初からキ・キ・キと早く声高に鳴くことが多い。
- ・♂が餌を獲り、♀に渡すことが多いが、その前につがいで鳴き交わすことが多い。
- ・ツミは獲物をくわえていてもよく鳴く。
- ・獲物を持った飛来状況から、ツミは1羽で

ツミ確認状況の推移

	♂親	♀親	雛・幼鳥	計
6月2日	1	1	0	2
7月19日	1	1	2	4
7月22日	1	1	2	4
7月23日		1	2	3
7月24日		1	3	4
7月26日		1	4	5
8月4日		1	3	4
8月15日		1	2	3
8月16日			2	2
8月18日			1	1
8月19日			0	0

- 1日に4～5羽は捕食していると思われた。
- ・シジュウカラ、ムクドリ、ヒヨドリ、セグロセキレイは、ツミがそばにいるとよく警戒音を出していたが、警戒音を出さずそばに寄ってゆく不思議な場面も何度もあった。
  - ・ツミに捕獲されているもの：スズメ、シジュウカラ、ムクドリ幼鳥、ヒヨドリ幼鳥、それにコウモリなどであった。
  - ・営巣場所近くでの狩りの観察はなかった。
  - ・採餌しているとき以外は、ほとんど木陰あるいは電線で羽繕いをしていた。
  - ・雛を確認した直後から♂親を確認できなかった。
  - ・雛・幼鳥への給餌は♀親だけだった。

### 雛・幼鳥について

- ・雛の白い幼羽(7/19)が日に日に黒っぽくなったかと思うとすぐ巣離れ(7/29)、飛翔(8/3)、そして幼鳥の姿となり狩りを始める(8/10)。その成長の速さに驚く。
- ・幼鳥は主に2羽で行動を共にしていた。
- ・幼鳥もよく鳴くが、その声は親鳥のその声を優しくした感じである。
- ・幼鳥の狩りの対象はアブラゼミだけで、フライングキャッチで捕獲していた。

### オナガとの関わり

- ・ツミの営巣場所にはオナガがいることが多いといわれているが、当観察地でも例年になくオナガが多く、かつ営巣もしていた。
- ・オナガの群れがときおりツミと一緒にいるが、ツミはとまっている枝を譲り、あるいは飛び去ってしまい、どちらかというツミが遠慮している感じであった。
- ・オナガはツミのエサを狙うようにそばにまで寄るが、奪ったところは見えていない。
- ・ツミが獲物を食べる時押さえていた枝にオナガがきて、その枝を“なめて”いる様子があった。
- ・ツミが姿を消すとオナガも少なくなり静かになる。かわりにカラスの飛来が増えた。ツミとオナガの関わり、わからないことばかりだが興味深い。

この約2ヵ月間は、身近で「鷹」観察ができる贅沢な毎日でした。来年以降の飛来を願い、報告を終わります。

## 私のフィールドノートから(ツミの報告) 山部直喜(三郷市)

近年、市街地からの観察報告が増えています。私が観察によく行く越谷市でも、今年、3カ所で観察することができました。

①神社：公園も隣接している。

・4月20日、前日にツミを目撃したという連絡を受ける。成鳥♂♀各1羽確認。

・4月21日、♂が枝の組み合わせた所に、小枝を運び胸で押さえて巣作り。営巣した松の木は駐車場からは3m、高さも5m程のところ。枝の混み具合も密でなく、カラスも多い場所である。

・「4月24日に交尾した」と地元の人の話。

・4月26日、巣から尾羽がのぞいていた。以後5月中旬まで、刺激を与えまいと観察を避ける。しかし、観察を再開した中旬以降、♂♀とも姿を確認できなかった。巣を放棄した様子。巣そのものが痩せた感じもした。

②屋敷林：四方を住宅地で囲まれた20×50mほどの疎林。

・4月22日、勤め先の駐車場で車を止めた際、近くの林からツミ♂♀の鳴き交わす声に気づく。以後、出勤のたびに姿を確認し、楽しみにしていたが、5月のGW後から確認できなくなった。営巣もしなかったと思われる。

③公園：(先月号の編集後記参照)

・7月22日、雛5、♂親、♀親を確認。第1子or第2子は親と見まがう大きさと羽の色。それに比べて第5子は真っ白の幼羽。管理人の話「ツミの巣は6月1日に気がついた。例年に比べてオナガが非常に多い。オナガの巣も10以上見つけた」。オナガは全てツミの巣から半径50m以内で営巣していた。

・7月27日、第1子or2子が親の運んできたと思われる獲物を採餌。その間、第3～5子は取り囲んで自分の順番を待っている様子。結局、第4～5子までは回ってこなかった。

・8月9日、この時点でも、第3～5子はその大きさと羽の色で区別が付く。

・地元の人の話「お盆の頃までに少しずつ姿を消した」。

・しかし8月17日、明らかに第5子が1羽でぼつんと人の手が届きそうな枝に止まっていた。行く末を想い思わず「がんばれ！」。



## 野鳥情報

**さいたま市岩槻区長宮** ◇7月6日、タマシギ♂型3羽、幼鳥2羽を連れた父親と思われる。コアジサシ飛べる幼鳥3羽、まだ飛べない幼鳥2羽、抱卵姿勢の成鳥7、8羽。これらの他に幼鳥が確認された種はコチドリ、ヒバリ、ハクセキレイ、カワラヒワの4種。7月22日、チュウサギ4羽、嘴が黄色くなっている。コアジサシ飛べる幼鳥3～5羽、まだ飛べない幼鳥7～8羽、抱卵姿勢の成鳥が減ってきた。キジ♀1羽がコアジサシの営巣地に入ってくると、コアジサシ成鳥5～6羽が一斉攻撃。その傍らでコアジサシ幼鳥1羽が地面に体を伏せる。営巣地外にキジ♂1羽。ハクセキレイ成鳥1羽、幼鳥1羽。成鳥はコアジサシ成鳥1羽を執拗に追い回す（小林洋一・小林みどり）。

**さいたま市北区大宮第二公園** ◇7月9日、コアジサシ1羽、ツバメ数羽にモビングされながら池の上空を飛ぶ。カワラヒワ1羽、芝生にできた水たまりで水浴び。頭部を水につけると同時に翼を激しく動かして水しぶきをあげる（小林みどり）。

**さいたま市見沼区染谷～加田屋** ◇7月18日、キジ♂1羽、農耕地を歩く。さえずっているホオジロ5羽。7月24日、さえずっているヒバリが少なくなってきた。2ヵ月半ぶりのセッカのさえずり。さえずっているホオジロ5羽。シジュウカラ幼鳥、メジロやコゲラと混群になっている。7月27日、ヒバリのさえずりが一度も聞かれなかった。セッカとホオジロはさえずっている（小林みどり）。

**さいたま市北区芝川（石橋～鷺山橋）** ◇7月20日、アオサギ1羽、中州に着地。アオサギは久しぶり。バンの声。7月25日、カイツブリの声。アオサギ成鳥2羽、幼鳥1羽、それぞれ単独行動。暑さのため、いずれも口を開け、喉をふるわせている。川岸の木

立に幼鳥と思われるコゲラ1羽、幹をつつく動作がなんとなくごちない。7月30日、家族群と思われるハシボソガラス6羽。1羽の幼鳥は枯れ草のかたまりをつついたり、くわえたりする。食べられるかどうか試しているように見える。8月15日、アオサギ成鳥1羽、カルガモ4羽（小林みどり）。

**行田市斎条の休耕田** ◇7月22日、ダイサギとチュウサギの10数羽の群れ。嘴が黄色い個体の方が多い。コチドリ10羽十、アオアシシギ6羽、アカエリヒレアシシギ♂1羽。7月28日、アマサギ15羽十、夏羽と冬羽は半々ぐらい。コチドリ10羽十、アオアシシギ10羽十、クサシギ1羽、タカブシギ3羽、オグロシギ1羽。8月5日、ムナグロ5羽、アオアシシギ40羽十、オグロシギ1羽。ショウドウツバメ20羽十、今季初認。8月10日、アマサギ、チュウサギ合わせて300羽十。チュウサギは嘴が黄色い個体が圧倒的に多い。アマサギは夏羽と冬羽が半々ぐらい。コアオアシシギ3羽、タカブシギ3羽。8月12日、カルガモ30～40羽があぜ道で休息。ムナグロ2羽、ケリ1羽、オジロトウネン夏羽1羽（小林洋一・小林みどり）。◇8月15日、ウズラシギ1羽とオジロトウネン1羽が並んで採餌。近くの休耕田にいたタカブシギ3羽、アオアシシギ12羽、コアオアシシギ3羽が突然一斉に飛び立つ。そこにオオタカ成鳥が襲い掛かるが、狩に失敗し、西方に飛び去る。アマサギ、チュウサギの数が多し（内田克二）。

**さいたま市岩槻区上野** ◇7月22日午前11時頃、シラコバト1羽。平成21年5月以来、久しぶりにこの場所で観察できた（菊川和男）。

**さいたま市岩槻区岩槻文化公園** ◇7月22日午後3時頃、コジュケイ2羽、姿を現す。ゴイサギ幼鳥1羽、上空通過。エナガの声、ガビチョウのさえずり。午後6時15分頃、まだ明るい中、ニイニイゼミの羽化始まる。桜の木で2頭（藤原寛治）。◇7月29日午前6時頃、コムドリ数羽。早朝に出掛けた甲斐があつて、ムクドリに混ざってコム

クドリ数羽を今季初めて観察することができた(菊川和男)。

**春日部市倉常** ◇8月5日、コチドリ30羽±、キアシシギ1羽、コアオアシシギ1羽(長嶋宏之)。

**さいたま市岩槻区浮谷** ◇8月5日~10日、コムドリの群れ50羽±が飛び回っていた(松原卓雄)。

**さいたま市見沼区染谷** ◇8月9日、コジュケイ1羽、畑を歩く(小林みどり)。

**さいたま市見沼区加田屋** ◇8月9日、ダイサギ1羽、チュウサギ4羽、アオサギ若鳥1羽、カルガモ成鳥1羽、幼鳥6羽、セッカのさえずり(小林みどり)。

**さいたま市緑区見沼自然公園** ◇8月9日、カイツブリ1羽、早くも冬羽。カルガモ成鳥24羽、アヒルと思われる1羽と共に池のほとりで休息。カルガモの大多数は、翼の一部が抜けている(小林みどり)。

**さいたま市大宮区大宮公園** ◇8月12日午前6時頃、犬と散歩して。氷川神社本殿裏の森(鎮守の杜)から、「ピョウ、ピョウ」という声。ムムッ! これってオオタカの声? ちょうどラジオ体操で公園に来ていた、当会リーダーのAさんに出会い、このことをお話すると、「公園の常連さんからも、オオタカがいると聞いた」とのこと。しかし、その後、盆休み中に何度か足を運びましたが声なしでした。オオタカ(雌or若)が、たまたま来ていたのでしょうか(浅見 徹)。

**加須市花崎** ◇8月15日、青毛堀川にコガモ2羽、今季初認。(中里裕一)。

#### 表紙の写真

#### スズメ目モズ科モズ属モズ

秋にはどこでもキチキチうるさい奴だが、世界の分布を調べてみたら、「ウスリー地方南部・中国北東部・日本などで繁殖、北方のものは中国南東部・日本南部などに移動して越冬。日露渡り鳥条約指定種」とある。見られる地域は意外と狭いんだ。

蟹瀬武男(さいたま市)

## (公財) 山階鳥類研究所から 第22回鳥学講座のお知らせ

### 「溜池の鳥と魚の密接な関係 ヨシゴイ・カンムリカイツブリ対モツゴ」

講師：佐原雄二(さわら・ゆうじ) 弘前大学農学生命科学部教授

日時：平成24年11月3日(土) 13時30分~15時00分(開場13時00分)

場所：アビスタ(我孫子市生涯学習センター)ホール(定員：120名)千葉県我孫子市若松26-4

参加費：無料(事前の申込みは要りません)

主催・問い合わせ：我孫子市鳥の博物館(電話04-7185-2212)、

(公財)山階鳥類研究所(広報担当電話04-7182-1101)

会場までの交通：JR常磐線 我孫子駅南口からアビスタ・市役所経由のバスでアビスタ前下車すぐ。

山階鳥類研究所と我孫子市鳥の博物館では、ジャパン・バード・フェスティバル2012(11月3日~4日我孫子市内)にあわせ、第22回鳥学講座を開催します。

池や沼には魚がいて、それを食べる鳥たちがいます。関東地方ではクチボソと呼ばれる小さな淡水魚モツゴは、人間の子供たちにとってよき遊び相手ですが、水辺に生息する水鳥にとっては重要なエサ資源です。今回の鳥学講座では、ヨシゴイやカンムリカイツブリなど溜池で繁殖・採餌する魚食性鳥類とモツゴなどの魚との関係を、青森県での研究例から紹介いただきます。

食べる者と食べられる者の体のつくりや行動は互いにどのように関連しているのでしょうか。魚類と鳥類の両方に詳しい講師から、水辺を舞台としたエコロジー(生態学)の一端を話していただきます。



## 行事案内



コガモ

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所におでかけください。

初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

**参加費**：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。

**持ち物**：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

**解散時刻**：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

### 北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：10月7日（日）

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR 高崎線北本駅西口から、北里メディカルセンター病院行きバス 8:33 発で「自然観察公園前」下車。（**ご注意：1 本前の 8:16 発は「公園前」を通りません**）

担当：吉原（俊）、浅見、大坂、内藤、相原（修）、岡安、立岩、永野、山野、飛田、関口、吉原（早）、相原（友）、長谷川

見どころ：秋の渡りのシーズンです。南に帰る夏鳥の通過と気の早い冬鳥の到来と、この時期ならではの思いがけない出会い。石戸宿はそんな期待にお応えできます。秋の草花や昆虫も楽しみです。

### さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

期日：10月7日（日）

集合：午前9時、さいたま市くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR 浦和駅東口②番バス乗り場から、東川口駅北口行き 8:37 発で「念仏橋」下車。

後援：さいたま市くらしの博物館民家園

担当：須崎、手塚、伊藤（芳）、倉林、若林、赤堀、藤田（敏）、野口（修）、大井

見どころ：4ヵ月ぶりの民家園周辺探鳥会です。見沼は渡りのシーズンになり、探鳥地としておすすめの時季です。芝川第一調節池周辺をゆっくり歩きます。

### 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：10月14日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷 9:09 発、または寄居 8:51 発に乗車。

担当：榎本（秀）、新井（巖）、森本、倉崎、千島、鶴飼、栗原、飛田

見どころ：昨年はヒタキをテーマにした探鳥会でしたが、結局、出会いはかなわず。今年はそのリベンジです。渡りの鳥たちの姿を探して、野鳥の森まで歩きます。

### 加須市・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：10月20日（土）

集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前。または午前8時30分、中央エントランス駐車場。

交通：東武日光線新越谷 7:21→春日部 7:36→栗橋 7:56→柳生 8:06 着。または JR 宇都宮線大宮 7:03→栗橋 7:38 着で、東武日光線乗り換え。

解散：正午ころ、谷中村史跡ゾーン広場。

担当：佐野、玉井、田邊、佐藤、山田、茂木、植平、内田、野口（修）、進士

見どころ：谷中湖にもそろそろ水鳥が渡ってくる頃。前シーズンはカモが少なかったけれど、今年はどうでしょう？ 中の島を通るいつものコースで、猛禽、小鳥を含めた気の早い冬鳥を探してみましよう。**当地が**

ラムサール条約に登録されて最初の探鳥会です。奮ってご参加を！

### さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：10月21日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、青木、新部、渡辺、小菅、若林、赤堀、増田、須崎、船木、畠山、柴野、倉林、宇野澤

見どころ：コスモスが一面に咲き、モズの高鳴きが聞こえます。コガモも芝川に渡って来て、鳥を見る距離が近くなりました。鳥を見始めた皆さんには、黄色のリボンを用意してお待ちしています。ぜひどうぞ。

### 川越市・西川越探鳥会

期日：10月21日（日）

集合：午前9時15分、JR川越線西川越駅前。

交通：JR埼京線大宮8:36→川越で9:06発高麗川行きに乗り継ぎ、西川越下車。

担当：佐久間、長谷部、山本、中村(祐)、山口

見どころ：暑い夏も去って、さわやかな秋になって来ました。鳥達も交替の時期です。どんな鳥が渡ってきているか楽しみです。いつものカワセミ、タカ類も待っています。

### 長野県・戸隠高原探鳥会（要予約）

期日：10月27日（土）～28日（日）

詳細は9月号をご覧ください。

### 行田市・さきたま古墳公園探鳥会

期日：10月28日（日）

集合：午前9時30分、県立さきたま史跡の博物館前レストハウス。

交通：JR高崎線吹上駅北口から、朝日バス8:47発、行田折返し場（佐間経由）行きで「産業道路」下車、徒歩約15分。またはJR行田駅東口から、行田市内循環バス・観光拠点コース左回り9:05発にて「埼玉古墳

公園前」下車、徒歩約2分。

担当：内藤、岡安、大坂、立岩、栗原、関口、相原(修)、相原(友)、茂木、長谷川、竹山  
見どころ：今年も暑い夏が続き落ち葉も遅く、鳥の姿が見えにくいさきたまの秋ですが、実りの秋は変わりなく、色づいた柿に群れる鳥は絵になります。公園の整備が進み、鳥には住みにくい環境ですが、ジョウビタキ、カモの第一陣も到着済みです。

### 新潟県上越市・朝日池探鳥会（要予約）

期日：12月8日（土）～9日（日）

集合：①午前6時45分、JR大宮駅西口ソニック大ホール前広場（鐘塚公園）。または、②午前7時30分、JR川越駅西口噴水広場。

交通：往復とも貸し切りバスを利用。

解散：9日（日）午後7時頃、JR北本駅西口を予定。※集合場所と異なります。

費用：28,000円の予定（貸し切りバス代、宿泊費、親睦会費、2日目の昼食、保険料など）。過不足の場合は当日精算。※集合までおよび解散後の交通費は各自負担。

定員：20名（先着順、当会員優先）、最少催行人数は16名。

申込み：往復はがきに住所、氏名、年齢（保険加入が必要）、電話番号、喫煙の有無、日本野鳥の会会員番号、集合場所（大宮か川越か）を明記して、入山博（〒

）まで。10月1日以降

の消印を有効受付とします。

担当：入山、持丸、玉井、星

見どころ：オジロワシが舞う朝日池を訪れます。約3,000羽のマガンたちの落雁や朝の飛び立ちを観察します。雁行を見たことがない方もぜひご参加ください。きっと、マガン達の飛ぶ姿の素晴らしさに感動することでしょう。運が良ければ、ハクガン等の珍しいガンに出会えるかも……

その他：宿泊は、朝日池に隣接するゴルフ場のホテルです。ツインのみで夫婦・親子の同室可。個室の用意はできません。

この時季は天候不順です。雨天・防寒対策が必要です。



## 行事報告

5月3日(木、休) 幸手市 宇和田公園

雨のため中止。(中里裕一)

5月5日(土、休) 千葉県習志野市 谷津干潟

参加：56名 天気：晴

カワウ ダイサギ アオサギ カルガモ コガモ  
チョウゲンボウ メダイチドリ ダイゼン キョ  
ウジョシギ トウネン ハマシギ キアシシギ  
オオソリハシシギ チュウシャクシギ セイタカ  
シギ キジバト ツバメ ヒヨドリ シジュウカ  
ラ メジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オ  
ナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (26種)  
(番外：ドバト) 開始後、すぐにチョウゲンボウ  
がお出迎え。干潟は徐々に水が引くと、海からシ  
ギ・チドリの群れが入ってくる。一番おもしろい  
頃に鳥合わせになってしまった。昼食後、干潟は  
シギ・チドリだらけになっていた。淡水池のトウ  
キョウダルマガエル、水路のアカエイなどでも楽  
しんだ。(杉本秀樹)

5月6日(日) 蓮田市 黒浜沼

参加：45名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ カル  
ガモ チョウゲンボウ コジュケイ キジバン  
コチドリ イソシギ タシギ キジバト カワセ  
ミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒ  
ヨドリ モズ オオヨシキリ セッカ シジュウ  
カラ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ  
ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) (番外：  
ドバト) 元荒川の岸沿いの道から田んぼを通り上  
沼周辺を歩いた。コチドリ、イソシギ、タシギは  
現れたが、残念ながら15年以上続いた黒浜のムナ  
グロの記録が途絶えてしまった。しかしオオヨシ  
キリ、セッカやツバメ等は元気で楽しませてくれ  
た。終わってみれば、大勢の参加者のおかげで思  
ったより多い29種も確認できた。(玉井正晴)

5月11~13日(金~日) 東京都 三宅島

参加：26名 天気：晴

コアホウドリ クロアシアホウドリ フルマカモ  
メ オオミズナギドリ ハシボソミズナギドリ  
カツオドリ カワウ ウミウ ゴイサギ アカガ  
シラサギ アマサギ ダイサギ コサギ トビ  
コジュケイ ムナグロ キョウジョシギ キアシ  
シギ セグロカモメ ウミネコ カラスバト キ  
ジバト ホトトギス アオバズク ヒメアマツバ  
メ アマツバメ プッポウソウ コゲラ ツバメ  
サンショウクイ ヒヨドリ モズ ミソサザイ  
コマドリ イソヒヨドリ アカコッコ ウグイス  
ウチヤマセンニュウ イイジマムシクイ ヤマガ  
ラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒ  
ワ スズメ ハシボソガラス ハシブトガラス  
(47種) 常宿新鼻荘では、オーストンヤマガラ・  
シチトウメジロ・カワラヒワ・スズメ等が歓迎。  
大路池~アカコッコ館では、アカコッコ・イイ  
ジマムシクイ・カラスバト・タネコマドリ・ミヤケ  
コゲラ・モスケミソサザイの定番と、アカガシ  
ラサギ・ゴイサギ・ダイサギ。伊豆岬灯台では、ウ  
チヤマセンニュウ・カツオドリ・キアシシギ。早  
朝探鳥会では、アオバズク・プッポウソウ。帰  
りの船上からは、オオミズナギドリ・クロアシア  
ホウドリ・フルマカモメを観察。天候にも恵まれ、  
7ヶ年連続の探鳥会が、無事終了した。

(藤掛保司)

5月13日(日) 熊谷市 大麻生

参加：26名 天気：晴

カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ  
トビ オオタカ キジ イソシギ キジバト コ  
ゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセ  
キレイ ヒヨドリ モズ ウグイス シジュウカ  
ラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ  
ハシボソガラス ハシブトガラス (25種) (番外：  
ガビチョウ) 久々に明戸堰に向けて歩いた。晴れ  
てさわやかな天気であったが、ガビチョウの声ば  
かりが響いていた。養護学校付近でやっとオオタ  
カがでてくれて、少しは探鳥会らしくなった。行  
きかう鳥は結構いたが、ゆっくり止まって姿を見  
せてくれる鳥は少ないように感じた。子育てに忙  
しいからだろう。(森本國夫)

5月19日(土) 加須市 加須はなさき公園

参加：34名 天気：晴

カワウ ダイサギ アオサギ カルガモ キジ

コチドリ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ  
ツバメ ハクセキレイ オオヨシキリ セッカ  
シジュウカラ メジロ カワラヒワ スズメ ム  
クドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラ  
ス (22種) (番外:ドバト) 爽やかな快晴に恵まれ、  
カワラヒワの声やオオヨシキリの声が聞こえる中、  
探鳥会は始まった。桜の林ではムクドリの番やス  
ズメが忙しく飛び交い、その雌雄の識別に盛り上  
がった。田植えの終わった田圃では採餌するダイ  
サギの繁殖羽が美しく、参加者の足が止まり、植  
物園では梢で羽繕いするコゲラの光を透かした羽  
に見とれた。背丈ほどに伸びたアシ原では赤い口  
を大きく開けたオオヨシキリを堪能し、空高く舞  
うヒバリとセッカの声が賑やかだった。林の出口  
で、鋭く響く声の主は飛びながら鳴いたカワセミ  
だった。新しく造成した空地に何かが動いた。コ  
チドリだ。よく見ると2羽いて、側にヒバリもい  
た。大きさや歩く姿の比較がよくできた。コース  
終了近く、ハクセキレイの雌雄が電線に止まって  
我々を見送ってくれた。 (長嶋宏之)

5月19日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア:12名

相原修一、新井浩、江浪功、榎本秀和、海老原教  
子、海老原美夫、大坂幸男、小林みどり、藤掛保  
司、増尾隆、吉原早苗、吉原俊雄

5月20日(日) さいたま市 三室地区

参加:58名 天気:晴

カワウ アオサギ カルガモ オオタカ キジ  
バン キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツ  
バメ ハクセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ  
セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ  
スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガ  
ラス (22種) (番外:ドバト) 出現鳥は少なかつた  
が、越谷のKさんが鳥の絵をペイントした名簿用  
の石の重しを寄贈され、また、代表から、探鳥会  
参加ランキング1位にさいたま市岩槻区のUさん、  
鳥見ランキング1位にさいたま市中央区のIさん  
親子が内定したと発表があり、嬉しい探鳥会にな  
った。 (楠見邦博)

5月26~27日(土~日) 長野県 戸隠高原

参加:30名 天気:晴

カイツブリ アオサギ オシドリ カルガモ ハ

イタカ ノスリ クマタカ キジ キジバト カ  
ッコウ ツツドリ ホトトギス フクロウ アカ  
ゲラ オオアカゲラ コゲラ ツバメ イワツバ  
メ キセキレイ サンショウクイ ヒヨドリ モ  
ズ ミソサザイ コルリ クロツグミ アカハラ  
ウグイス センダイムシクイ キクイタダキ キ  
ビタキ オオルリ コサメビタキ エナガ コガ  
ラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカ  
ラ キバシリ メジロ ホオジロ ノジコ アオ  
ジ クロジ カワラヒワ イカル ニュウナイス  
ズメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラ  
ス ハシブトガラス (52種) 両日とも晴れとの予  
報で皆さん期待に胸を弾ませている。植物園に着  
くと早速、ノジコやニュウナイスズメが出迎えて  
くれた。天気もいいので鏡池へのコースをとる。  
キバシリ、アカゲラ、キビタキ、コサメビタキを  
観察しながら鏡池に到着。ここまででかなり充実  
した探鳥会となった。鏡池では昼食をとり、オシ  
ドリを観察する。隋神門へ向かい休憩したのち水  
芭蕉園地へ。ここではオオアカゲラやアカゲラが  
営巣しているようでカメラマンが多い。クロツグ  
ミをどなたかが見つけてくれて皆で観察。盛んに  
囀っていたがやっと姿を見ることができた。翌日  
は久しぶりの4時半の出発。ミソサザイが大声で  
出迎えてくれた。コルリの囀りを頼りに姿を探す  
と、梢で見つけることができた。ここのコルリは  
サービス精神が良いので助かった。キャンプ場  
でお弁当をいただいたあと、コサメビタキ、アカゲ  
ラを観察し無事終了。 (菱沼一充)

5月27日(日) 狭山市 入間川

参加:39名 天気:快晴

カワウ ササゴイ マガモ カルガモ トビ コ  
チドリ イカルチドリ キジバト アオゲラ ツ  
バメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセクレ  
イ ヒヨドリ オオヨシキリ シジュウカラ ホ  
オジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ  
ハシボソガラス ハシブトガラス (23種) 今月の  
見どころは、オオヨシキリとササゴイ。オオヨシ  
キリはかなり高い確率で見られると思っていたが、  
声だけ。一方ササゴイは見られたらラッキーぐら  
いのつもりだったら数個体がいる、皆でゆっくり  
見ることができた。カワセミ、アオサギ、コゲラ  
などの常連が見られず観察種数も少なめだったが、  
好天に恵まれまずまずの1日。 (長谷部謙二)



●抗議文に対する回答書

前号 4 ページに掲載した朝日新聞社などに対する 7 月 25 日付け抗議文に対し、コンテスト主催 3 者を代表して全日本写真連盟から、8 月 6 日付けで要旨次の通りの回答が届きました。

「日本の自然写真コンテストは、いつまでも守り続けたい日本の自然をテーマに 30 年近く継続してきたものです。生態系を含め、自然環境の保護を訴えることが、コンテストの趣旨です。この作品につきましても、撮影者の方はコンテストの趣旨をよくご理解いただいております、相当離れた場所から望遠レンズを使い、ヨシキリを驚かさないように配慮されたとのこと。ただ、ご意見は真摯に受け止め、今後のコンテスト運営、紙面掲載の際に留意させていただく所存です。」

野鳥の撮影に望遠レンズを使うのは当たり前前のことであり、不十分な回答と言わざるを得ません。今後も粘り強い活動が必要で

●スズメバチにご用心

9 月から 11 月はスズメバチの活動が最も活発な季節です。

なるべく白っぽい服装で白っぽい帽子をかぶってください。黒くて動くものは攻撃を受けやすく、カメラや長靴などが攻撃されたとの話もあります。ヘアスプレー、化粧品の匂いなどに敏感なので、鳥見の時にはつけないように。



しつこくまといつくように飛んだら近くに巣があるかもしれません。姿勢を低くして静かに来た方向に戻りましょう。

運悪く刺された時は、傷口をつまみながらできるだけ毒を水で洗い流し、冷やしながら早く病院に行くことが肝心です。(毒を口で吸い出そうとするのは厳禁です。口の中の傷などから毒が吸収されます。吸引用の道具が販売されています。)

●会員数は

9 月 1 日現在 1,926 人。

活動と予定

●8月の活動

8 月 11 日(土) 9 月号校正(海老原美夫、大坂幸男、志村佐治、長嶋宏之、藤掛保司、山田義郎)。

8 月 19 日(日) 役員会(司会:相原修一、各部の報告・関東ブロック協議会参加者・その他)。

8 月 20 日(月)「埼玉会報だけの会員」に向け 9 月号を発送(倉林宗太郎)。

●10月の予定

10 月 6 日(土) 編集部・普及部・研究部会。  
10 月 13 日(土) 11 月号校正(午後 4 時から)。  
10 月 20 日(土) 袋づめの会(午後 3 時から)。  
10 月 21 日(日) 役員会(午後 4 時から)。

編集後記

行事案内欄の原稿取りまとめは長年 N さんが担当していましたが、8 月号から A さんにかわりました。N さんのご苦勞に感謝しています。(海)

編集会議は 9 月 1 日。その日に向けてねじり鉢巻きで編集作業をしている今日は 31 日。せっぱ詰まって夏休みの宿題に取り組んだ昔から成長してない自分に苦笑する。(山部)

しらこぼと 2012 年 10 月号(第 342 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)  
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 郵便振替 00190-3-121130  
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号  
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/  
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com  
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田 3 丁目 9 番 23 号 丸和ビル  
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org  
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社